

が56.8%、男性限定のバーが35.1%であった。

一方、海外の旅行先でコンドームを使わないアナルセックスをしたことがある人は6.8%であった。

CBO 活動の認知

首都圏におけるCBOの活動拠点であるコミュニティセンターaktaという場所を知っている人は66.9%と多くの人が知っているが、行ったことがある人は全体の44.6%であった。

aktaが実施した「Safer Sex キャンペーン」のポスター画像を提示し、見たことがあるか尋ねたところ、見たことがあると回答した人は45.9%と半数以下であった。

aktaが月刊で発行しているフリーペーパーakta monthly paperを読んだことがある人は56.1%である一方で、見かけたことはあるが読んだことはない人も14.9%いた。

CBO 活動の受け入れ

「そう思う」と「ややそう思う」を合計すると、aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく自分の仲間がやっている活動だと感じる(54.1%)、aktaのメッセージは自分へのメッセージだと感じる(48.0%)、aktaのメッセージはHIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる(53.4%)、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしている(60.1%)とおおむね半数近くは、aktaの活動コンセプトの通りに認知しており、aktaの活動に共感する(60.8%)という状況であった。

新宿二丁目に対するコミュニティ感覚

新宿二丁目というコミュニティを仮定して、コミュニティ意識を尋ねたところ、「そう思う」と「ややそう思う」を合計すると、安心感のようなものを感じる(68.2%)、誇りや愛着のようなものを感じる(61.5%)、ここで

しか得られないものがあると思う(79.1%)のように感じており、コミュニティを基盤とした介入の有効性の前提となるコミュニティ感覚があることが確認された。

さらに、新宿二丁目のために何かできることがあれば参加したい(63.5%)、HIVや性感染症の予防活動に、何らかの形で参加や協力をしたいと思う(55.4%)、新宿二丁目HIVや性感染症の予防活動は必要だと思う(85.8%)と、新宿二丁目というコミュニティに対する貢献したいという思いや、HIV及び性感染症の予防に対する思いを持っていることが明らかとなった。

介入店舗利用客と未介入店舗利用客の比較

aktaによるアウトリーチを実施している店舗を利用していた回答者と、アウトリーチ未実施の店舗を利用していた回答者を比較した。

アウトリーチ実施店舗では、友達や知り合いにHIVに感染している人がいるあるいはいると思うと回答した人が70.7%と有意に多かった($p=0.005$)。

予防行動では、HIV抗体検査の生涯受検経験および過去1年の受検経験ともに有意差は見られなかった。コンドームの使用意図及び行動に関しても、有意差は見られなかった。

コミュニティセンターaktaに行ったことがある人は、介入店舗群が52.6%に対して未介入店舗群では15.6%と介入店舗群での認知が有意に高かった($p<0.001$)。同様にSafer Sexキャンペーンの認知も53.4%に対して18.8%と介入店舗群で有意に高かった。

aktaの活動に対する受け入れでは、「新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしている」のみが36.2%に対して21.9%と介入店舗群で有意に高かった($p=0.011$)。

新宿二丁目に対するコミュニティ意識では、安心感のようなものを感じる($p=0.038$)、誇りとか愛着のようなものを感じる($p=0.020$)、

新宿二丁目でしか得られないものがあると思う ($p < 0.001$) が、いずれも介入店舗群で有意に高い結果であった。HIV について話をすることへのタブー感は有意差が見られなかった。

D. 考察

アウトリーチ活動のプログラム評価を実施し、活動をモデル化した研究の結果を活用し、測定項目を起案することによって、コミュニティを基盤とした活動をアウトカム評価だけによらないプロセス評価を実現することが可能になった。また、CBO がアウトリーチしているゲイバーに加え、これまでにアウトリーチ活動を行っていない店舗の協力を得ることが出来、介入実施店舗と介入未実施店舗の利用者を比較することが可能となった。

調査参加者の属性

調査参加者は 20 歳代が 64.9%であり、20 歳代を中心とした調査目的に沿った参加者であった若い層をとらえることができた。過去 6 か月以内に利用した施設では、男性限定のクラブ(38.5%)や有料のハッテン場(31.1%)の利用は 4 割以下であり、商業施設の種類によって異なる利用者の特性や価値観に合わせた介入を展開する必要性が示唆された。

新宿二丁目に対するコミュニティ感覚

CBO が介入の基盤とする新宿二丁目というコミュニティに関するコミュニティ意識を尋ねたところ、安心感のようなものを感じる(68.3%)、ほこりや愛着のようなものを感じる(61.5%)、ここでしか得られないものがあると思う(79.1%)と感じている人が多くおり、新宿二丁目という一つのコミュニティを持っていることがわかった。

これにより、コミュニティをより良くしたい大切にしたいという意識のもと、仲間に対する信頼や価値観に基づき CBO がそのコミュニティの一員としてふるまうことにより信頼

を得て、公共的な目的での活動を支援する感情が起こると考えられる。CBO がアウトリーチ活動を行っている店舗と未実施店舗の間では、コミュニティセンターakta の認知や啓発資材の認知、Web サイトの認知に有意な差が見られ、また友人・知人に HIV 陽性者がいるの回答も有意な差異が見られ、前者が高い結果であった。

しかし、新宿二丁目のために何かできることがあれば参加したい、HIV や性感染症の予防活動に、何らかの形で参加や協力をしたいと思う、新宿二丁目 HIV や性感染症の予防活動は必要だと思ふといった、態度に関する質問について、介入実施店舗と未実施店舗の利用者の回答に有意差は認められなかった。今回の調査では、協力が得られた未実施店舗は 2 店舗で、そのため調査参加者数が少なかった。今後、サンプルサイズを増やす工夫をして、検証を重ねる必要がある。

E. 結論

新宿二丁目のある首都圏地域において、20 代を中心とする若年ゲイバー顧客を対象に、HIV 感染予防行動、地域間移動と移動先での性行動、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知と受け入れ、コミュニティ感覚に関する評価を、GCQ アンケートシステムを用いて実施した。

新宿二丁目の CBO である akta がアウトリーチにより関係性が構築できている介入店舗利用者の回答と、現在までアウトリーチを実施していない店舗利用者の回答を比較したところ、HIV 感染予防行動に有意な差はみられなかったが、コミュニティセンターakta の認知や啓発資材の認知、Web サイトの認知、友達や知り合いに HIV に感染している人がいる、コミュニティに関する安心感や愛着といったコミュニティ感覚に有意差が見られた。

表1. 属性と検査受検経験(介入群別集計)

	介入実施店舗 (n=116)		介入未実施店舗 (n=32)		全体 (n=148)		介入実施店舗と未実施店舗の比較 (カイ2乗検定による) p値
	n	%	n	%	n	%	
年齢(5歳階級)							0.175
24歳以下	42	(36.2%)	16	(50.0%)	58	(39.2%)	「29歳以下」と「30歳以上」を比較
25-29歳	30	(25.9%)	8	(25.0%)	38	(25.7%)	
30-34歳	22	(19.0%)	4	(12.5%)	26	(17.6%)	
35-39歳	7	(6.0%)	3	(9.4%)	10	(6.8%)	
40歳以上	15	(12.9%)	1	(3.1%)	16	(10.8%)	
あなたはここ2,3か月の間にどの程度新宿二丁目を訪れましたか。							0.172
月1回以下	28	(24.1%)	11	(34.4%)	39	(26.4%)	「一週間に1回以上」とそれ以外を比較
2,3週間に1回程度	18	(15.5%)	6	(18.8%)	24	(16.2%)	
1週間に1回程度	38	(32.8%)	8	(25.0%)	46	(31.1%)	
1週間に2回以上	32	(27.6%)	7	(21.9%)	39	(26.4%)	
過去6か月以内に利用した施設(複数回答)							
バー(男性限定)	106	(91.4%)	23	(71.9%)	129	(87.2%)	0.003
クラブ(男性限定)	49	(42.2%)	8	(25.0%)	57	(38.5%)	0.076
ゲイショップ	50	(43.1%)	10	(31.3%)	60	(40.5%)	0.227
出会い系サイト	31	(26.7%)	6	(18.8%)	37	(25.0%)	0.356
エロ系SNS	18	(15.5%)	6	(18.8%)	24	(16.2%)	0.660
ゲイ向け出会いアプリ	82	(70.7%)	24	(75.0%)	106	(71.6%)	0.632
FacebookやTwitter等のSNS	75	(64.7%)	17	(53.1%)	92	(62.2%)	0.234
ゲイ向けサークル	15	(12.9%)	1	(3.1%)	16	(10.8%)	0.114
ゲイ向け合コン	12	(10.3%)	2	(6.3%)	14	(9.5%)	0.483
ゲイの乱バ	9	(7.8%)	1	(3.1%)	10	(6.8%)	0.355
有料のハッテン場	38	(32.8%)	8	(25.0%)	46	(31.1%)	0.401
ゲイが集まることで有名な銭湯・プールなどの施設	25	(21.6%)	7	(21.9%)	32	(21.6%)	0.969
野外のハッテン場	13	(11.2%)	0	(0.0%)	13	(8.8%)	0.047
いずれもない	2	(1.7%)	0	(0.0%)	2	(1.4%)	
過去6か月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？							0.782
ある	72	(62.1%)	19	(59.4%)	91	(61.5%)	「ある」とそれ以外を比較
ない	41	(35.3%)	12	(37.5%)	53	(35.8%)	
友達や知り合いいない	3	(2.6%)	1	(3.1%)	4	(2.7%)	
過去6か月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？							0.568
ある	35	(30.2%)	8	(25.0%)	43	(29.1%)	「ある」とそれ以外を比較
ない	41	(35.3%)	14	(43.8%)	55	(37.2%)	
彼氏恋人いない	40	(34.5%)	10	(31.3%)	50	(33.8%)	
あなたの友達や知り合いにHIV(エイズ)に感染している人はいると思いますか？							0.005
いる	68	(58.6%)	8	(25.0%)	76	(51.4%)	「いる+いると思う」とそれ以外を比較
いると思う	14	(12.1%)	6	(18.8%)	20	(13.5%)	
いないと思う	17	(14.7%)	9	(28.1%)	26	(17.6%)	
いない	3	(2.6%)	2	(6.3%)	5	(3.4%)	
わからない	14	(12.1%)	7	(21.9%)	21	(14.2%)	
あなたはこれまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？							0.134
ある	91	(78.4%)	21	(65.6%)	112	(75.7%)	
ない	25	(21.6%)	11	(34.4%)	36	(24.3%)	
過去1年間の受検経験							0.357
過去1年間に受検あり	65	(56.0%)	15	(46.9%)	80	(54.1%)	「過去1年間に受検あり」とそれ以外を比較
受検せず	45	(38.8%)	14	(43.8%)	59	(39.9%)	
1年以上前に陽性を確認	6	(5.2%)	3	(9.4%)	9	(6.1%)	
過去1年の受検経験がある人のうち受検した場所(複数回答)							
南新宿検査相談所	17	(26.2%)	1	(6.7%)	18	(22.5%)	0.103
保健所	30	(46.2%)	11	(73.3%)	41	(51.3%)	0.058
臨時検査	10	(15.4%)	0	(0.0%)	10	(12.5%)	0.104
病院や診療所	18	(27.7%)	2	(13.3%)	20	(25.0%)	0.247
郵送検査	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	
その他	1	(1.5%)	2	(13.3%)	3	(3.8%)	0.030

表2. HIV感染予防行動

	介入実施 店舗 (n=116)		介入未実施 店舗 (n=32)		全体 (n=148)		介入実施店舗と未実施店 舗の比較 (カイ2乗検定による) p値
	n	%	n	%	n	%	
これまでに男性とセックスをしたことがありますか？							0.598
ある	115	(99.1%)	32	(100.0%)	147	(99.3%)	
ない	1	(0.9%)	0	(0.0%)	1	(0.7%)	
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？							0.929
ある	112	(96.6%)	31	(96.9%)	143	(96.6%)	
ない	4	(3.4%)	1	(3.1%)	5	(3.4%)	
過去6か月間に、コンドームを買ったことがありますか？*							0.006
ある	45	(40.2%)	21	(67.7%)	66	(44.6%)	
ない	67	(59.8%)	10	(32.3%)	77	(52.0%)	
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？*							0.195
過去6か月以内	77	(68.8%)	25	(80.6%)	102	(68.9%)	「過去6か月以内」とそれ以外を比較
1年以内	12	(10.7%)	3	(9.7%)	15	(10.1%)	
1年以上前	19	(17.0%)	3	(9.7%)	22	(14.9%)	
覚えていない	4	(3.6%)	0	(0.0%)	4	(2.7%)	
そのときの相手は次のうちどれにあてはまりますか？*							0.227
彼氏や恋人	34	(30.4%)	6	(19.4%)	40	(27.0%)	「彼氏や恋人」とそれ以外を比較
友達やセクフレ	41	(36.6%)	14	(45.2%)	55	(37.2%)	
その場限りの相手	37	(33.0%)	11	(35.5%)	48	(32.4%)	
その他	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	
そのときのアナルセックスのポジションはどれをしましたか？*							
タチ	33	(29.5%)	6	(19.4%)	39	(26.4%)	
ウケ	48	(42.9%)	11	(35.5%)	59	(39.9%)	
タチウケ両方	29	(25.9%)	14	(45.2%)	43	(29.1%)	
覚えていない	2	(1.8%)	0	(0.0%)	2	(1.4%)	
一番最近のセックスをする前に、あなたはコンドームを使いたいと思っていましたか？*							0.466
はい	66	(58.9%)	16	(51.6%)	82	(55.4%)	「はい」とそれ以外を比較
いいえ	20	(17.9%)	6	(19.4%)	26	(17.6%)	
相手次第	18	(16.1%)	5	(16.1%)	23	(15.5%)	
特に考えていなかった	8	(7.1%)	2	(6.5%)	10	(6.8%)	
わからない	0	(0.0%)	2	(6.5%)	2	(1.4%)	
一番最近の相手とコンドームの使用についての意思を確認しましたか？*							0.172
はい	66	(58.9%)	14	(45.2%)	80	(54.1%)	「はい」とそれ以外を比較
いいえ	39	(34.8%)	15	(48.4%)	54	(36.5%)	
わからない	7	(6.3%)	2	(6.5%)	9	(6.1%)	
一番最近のアナルセックスで、コンドームを使いましたか？*							0.496
使った	69	(61.6%)	17	(54.8%)	86	(58.1%)	「使った」とそれ以外を比較
使わなかった	37	(33.0%)	13	(41.9%)	50	(33.8%)	
覚えていない	6	(5.4%)	1	(3.2%)	7	(4.7%)	
一番最近の相手がHIV(エイズ)に感染しているか、セックスする前に知っていましたか？*							0.227
知っていた	34	(30.4%)	6	(19.4%)	40	(27.0%)	「知っていた」とそれ以外を比較
知らなかった	38	(33.9%)	10	(32.3%)	48	(32.4%)	
わからない	40	(35.7%)	15	(48.4%)	55	(37.2%)	
海外の旅行先で、コンドームを使わないアナルセックスをしたことはありますか？*							0.508
はい	7	(6.3%)	3	(9.7%)	10	(6.8%)	「はい」とそれ以外を比較
いいえ	99	(88.4%)	21	(67.7%)	120	(81.1%)	
わからない	6	(5.4%)	7	(22.6%)	13	(8.8%)	
国内や海外の旅行先でセックス相手と出会うために使用したものはありますか？*(複数回答)							
1 バー(男性限定)	43	(38.4%)	9	(29.0%)	52	(35.1%)	0.348
2 クラブ(男性限定)	29	(25.9%)	2	(6.5%)	31	(20.9%)	0.021
3 出会い系サイト	24	(21.4%)	3	(9.7%)	27	(18.2%)	0.142
4 エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	18	(16.1%)	1	(3.2%)	19	(12.8%)	0.064
5 ゲイ向けアプリ	68	(60.7%)	16	(51.6%)	84	(56.8%)	0.384
6 FacebookやTwitter等のSNS	28	(25.0%)	6	(19.4%)	34	(23.0%)	0.521
7 有料のハッテン場	31	(27.7%)	3	(9.7%)	34	(23.0%)	0.039
8 ゲイが集まる銭湯・プールなどの施設	15	(13.4%)	1	(3.2%)	16	(10.8%)	0.114
9 野外のハッテン場	7	(6.3%)	1	(3.2%)	8	(5.4%)	0.519
10 いずれもない	24	(21.4%)	10	(32.3%)	34	(23.0%)	0.209

*分母は生涯の男性とのアナルセックスの経験者

表3. CBO活動の認知

	介入実施 店舗 (n=116)		介入未実施 店舗 (n=32)		全体 (n=148)		介入実施店舗と未実施店 舗の比較 (カイ2乗検定による) p 値
	n	%	n	%	n	%	
新宿2丁目にある「コミュニティセンターakta」という場所を、知っていますか？							<0.001
知っている、行ったことがある	61	(52.6%)	5	(15.6%)	66	(44.6%)	行ったことがあるとそれ以外 を比較
知っている、行ってみたい	12	(10.3%)	4	(12.5%)	16	(10.8%)	
知っているが、行ってみようと思わない	13	(11.2%)	4	(12.5%)	17	(11.5%)	
名前は聞いたことがあるが、何か知らない	14	(12.1%)	6	(18.8%)	20	(13.5%)	
知らない	16	(13.8%)	13	(40.6%)	29	(19.6%)	
aktaが作っているヤローページを読んだことがありますか？							
読んだことがあります今後読みたい	39	(33.6%)	3	(9.4%)	42	(28.4%)	
読んだことがあります、見かけたら読む	25	(21.6%)	4	(12.5%)	29	(19.6%)	
読んだことがあるが、今後読もうとは思わない	3	(2.6%)	2	(6.3%)	5	(3.4%)	
見かけたことはあるが読んだことはない	16	(13.8%)	4	(12.5%)	20	(13.5%)	
知らない	33	(28.4%)	19	(59.4%)	52	(35.1%)	
aktaのキャンペーン(Safersexキャンペーンのロゴ)を見たことがありますか？							<0.001
見たことがある	62	(53.4%)	6	(18.8%)	68	(45.9%)	
見たことがない	54	(46.6%)	26	(81.3%)	80	(54.1%)	
aktaが発行しているフリーペーパーakta monthly paperを読んだことがありますか？							
読んだことがあります今後読みたい	49	(42.2%)	4	(12.5%)	53	(35.8%)	
読んだことがあります、見かけたら読む	26	(22.4%)	2	(6.3%)	28	(18.9%)	
読んだことがあるが、今後読もうとは思わない	1	(0.9%)	1	(3.1%)	2	(1.4%)	
見かけたことはあるが読んだことはない	18	(15.5%)	4	(12.5%)	22	(14.9%)	
知らない	22	(19.0%)	21	(65.6%)	43	(29.1%)	
新宿二丁目で Condom など配布しているデリバリーボーイズをみかけたことがありますか？							
参加したことがある	16	(13.8%)	2	(6.3%)	18	(12.2%)	
見かけたことがある	71	(61.2%)	11	(34.4%)	82	(55.4%)	
見たことがない	16	(13.8%)	5	(15.6%)	21	(14.2%)	
知らない	13	(11.2%)	14	(43.8%)	27	(18.2%)	
aktaが運営している下のWEBサイトをみたことがありますか？							0.009
見たことがある	59	(50.9%)	8	(25.0%)	67	(45.3%)	
見たことがない	57	(49.1%)	24	(75.0%)	81	(54.7%)	

表4. コミュニティにおけるCBO活動の受け入れ(介入群別集計)

	介入実施 店舗 (n=116)		介入未実施 店舗 (n=32)		全体 (n=148)		介入実施店舗と未実施店 舗の比較 (カイ2乗検定による) p値
	n	%	n	%	n	%	
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。							0.357
そう思う	45	(38.8%)	11	(34.4%)	56	(37.8%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外を比較
ややそう思う	20	(17.2%)	4	(12.5%)	24	(16.2%)	
どちらともいえない	15	(12.9%)	2	(6.3%)	17	(11.5%)	
あまりそう思わない	14	(12.1%)	0	(0.0%)	14	(9.5%)	
そう思わない	6	(5.2%)	2	(6.3%)	8	(5.4%)	
aktaの活動を知らない	16	(13.8%)	13	(40.6%)	29	(19.6%)	
aktaのメッセージは、自分への(私への)メッセージだと感じる。							0.347
そう思う	27	(23.3%)	6	(18.8%)	33	(22.3%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外を比較
ややそう思う	31	(26.7%)	7	(21.9%)	38	(25.7%)	
どちらともいえない	23	(19.8%)	4	(12.5%)	27	(18.2%)	
あまりそう思わない	11	(9.5%)	0	(0.0%)	11	(7.4%)	
そう思わない	4	(3.4%)	2	(6.3%)	6	(4.1%)	
aktaの活動を知らない	20	(17.2%)	13	(40.6%)	33	(22.3%)	
aktaからのメッセージは、HIVや性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。							0.217
そう思う	32	(27.6%)	7	(21.9%)	39	(26.4%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外を比較
ややそう思う	33	(28.4%)	7	(21.9%)	40	(27.0%)	
どちらともいえない	22	(19.0%)	2	(6.3%)	24	(16.2%)	
あまりそう思わない	8	(6.9%)	1	(3.1%)	9	(6.1%)	
そう思わない	1	(0.9%)	2	(6.3%)	3	(2.0%)	
aktaの活動を知らない	20	(17.2%)	13	(40.6%)	33	(22.3%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。							0.011
そう思う	42	(36.2%)	7	(21.9%)	49	(33.1%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外を比較
ややそう思う	34	(29.3%)	6	(18.8%)	40	(27.0%)	
どちらともいえない	17	(14.7%)	5	(15.6%)	22	(14.9%)	
あまりそう思わない	3	(2.6%)	0	(0.0%)	3	(2.0%)	
そう思わない	0	(0.0%)	2	(6.3%)	2	(1.4%)	
aktaの活動を知らない	20	(17.2%)	12	(37.5%)	32	(21.6%)	
aktaの活動に共感する。							0.157
そう思う	45	(38.8%)	8	(25.0%)	53	(35.8%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外を比較
ややそう思う	29	(25.0%)	8	(25.0%)	37	(25.0%)	
どちらともいえない	20	(17.2%)	1	(3.1%)	21	(14.2%)	
あまりそう思わない	4	(3.4%)	1	(3.1%)	5	(3.4%)	
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	
aktaの活動を知らない	18	(15.5%)	14	(43.8%)	32	(21.6%)	

表5. コミュニティ感覚に関する項目(介入別集計)

	介入実施 店舗 (n=116)		介入未実施 店舗 (n=32)		全体 (n=148)		介入実施店舗と未実施店 舗の比較 (カイ2乗検定による) p値
	n	%	n	%	n	%	
新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる。							0.038
そう思う	46	(39.7%)	9	(28.1%)	55	(37.2%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外
ややそう思う	38	(32.8%)	8	(25.0%)	46	(31.1%)	
どちらともいえない	24	(20.7%)	4	(12.5%)	28	(18.9%)	
あまりそう思わない	6	(5.2%)	2	(6.3%)	8	(5.4%)	
そう思わない	2	(1.7%)	9	(28.1%)	11	(7.4%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。							0.020
そう思う	31	(26.7%)	10	(31.3%)	41	(27.7%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外
ややそう思う	46	(39.7%)	4	(12.5%)	50	(33.8%)	
どちらともいえない	26	(22.4%)	5	(15.6%)	31	(20.9%)	
あまりそう思わない	9	(7.8%)	2	(6.3%)	11	(7.4%)	
そう思わない	4	(3.4%)	11	(34.4%)	15	(10.1%)	
新宿二丁目でしか得られないものがあると思う。							<0.001
そう思う	67	(57.8%)	13	(40.6%)	80	(54.1%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外
ややそう思う	33	(28.4%)	4	(12.5%)	37	(25.0%)	
どちらともいえない	7	(6.0%)	5	(15.6%)	12	(8.1%)	
あまりそう思わない	5	(4.3%)	2	(6.3%)	7	(4.7%)	
そう思わない	4	(3.4%)	8	(25.0%)	12	(8.1%)	
新宿二目的のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。							0.168
そう思う	35	(30.2%)	9	(28.1%)	44	(29.7%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外を比較
ややそう思う	42	(36.2%)	8	(25.0%)	50	(33.8%)	
どちらともいえない	23	(19.8%)	9	(28.1%)	32	(21.6%)	
あまりそう思わない	9	(7.8%)	5	(15.6%)	14	(9.5%)	
そう思わない	7	(6.0%)	1	(3.1%)	8	(5.4%)	
新宿二目的のHIV(エイズ)や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。							0.273
そう思う	29	(25.0%)	6	(18.8%)	35	(23.6%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外を比較
ややそう思う	38	(32.8%)	9	(28.1%)	47	(31.8%)	
どちらともいえない	29	(25.0%)	12	(37.5%)	41	(27.7%)	
あまりそう思わない	9	(7.8%)	4	(12.5%)	13	(8.8%)	
そう思わない	11	(9.5%)	1	(3.1%)	12	(8.1%)	
新宿二丁目では、HIV(エイズ)について話をするに、タブー感(ためらい)がある。							0.462
そう思う	13	(11.2%)	9	(28.1%)	22	(14.9%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外を比較
ややそう思う	26	(22.4%)	4	(12.5%)	30	(20.3%)	
どちらともいえない	28	(24.1%)	7	(21.9%)	35	(23.6%)	
あまりそう思わない	25	(21.6%)	5	(15.6%)	30	(20.3%)	
そう思わない	24	(20.7%)	7	(21.9%)	31	(20.9%)	
新宿二丁目HIV(エイズ)や性感染症の予防活動は必要だと思う。							0.404
そう思う	83	(71.6%)	20	(62.5%)	103	(69.6%)	「そう思う+ややそう思う」と それ以外を比較
ややそう思う	18	(15.5%)	6	(18.8%)	24	(16.2%)	
どちらともいえない	8	(6.9%)	6	(18.8%)	14	(9.5%)	
あまりそう思わない	4	(3.4%)	0	(0.0%)	4	(2.7%)	
そう思わない	3	(2.6%)	0	(0.0%)	3	(2.0%)	

商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価
-初性交時周辺に焦点をあてた予防介入-

研究分担者：鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）
研究協力者：塩野徳史（名古屋市立大学看護学部/MASH 大阪）、後藤大輔、町登志雄、
宮田 良（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）、大畑泰次郎、
伴仲昭彦（MASH 大阪）、新山賢、岡崎好晃（HaaT えひめ）、
大山治彦（四国学院大学社会福祉学部/HaaT えひめ）、
松本健二（大阪市保健所感染症対策監）、
半羽宏之（大阪市健康局医務監兼保健所感染症対策課長）、
安井典子、細井舞子（大阪市保健所感染症対策課）、
永井仁美（大阪府健康医療部保健医療室医療対策課長）

研究要旨

本研究は初性交時周辺に焦点をあて、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした新たな啓発介入を開発し、その効果評価を目的としている。啓発介入はCBOと協働で開発し、コミュニティベース調査と大阪市・大阪府と協力し保健所等でHIV抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査によって評価することとした。初年度は啓発介入プロジェクトを発足し、新型啓発介入に展開・評価するための基礎資料を得ることを目的として上記の2つの調査を実施した。

8月、イベント参加者を対象にインターネットを利用したコミュニティベース調査を行い、近畿在住MSM 484人の回答を得た。初および最近の性交時の予防行動の関連要因では最近の性交時のコンドーム使用意図(4.68倍、95%CI: 2.10-10.44)が最も強く、次いで初性交時のコンドーム使用意図(4.06倍、95%CI: 1.97-8.37)も関連していた。また初めて話したゲイ男性との性交割合は78.4%-86.7%と極めて高いことから、初性交時周辺に焦点をあてた介入は妥当である。コンドーム使用に影響する要因としては、コンドーム使用意図があると使用割合も高く(初性交時の使用割合: 意図あり61.1%、意図なし15.3%)、使用意図を醸成する啓発が有用と考えられた。

初年度はMASH大阪、HaaTえひめと協働して「やる!プロジェクト」を開発、総数7,298セット配布した。この介入は商業施設を利用しはじめる若年層MSMを24歳以下の若年層と仮定し、基礎的な知識や情報を普及し予防ネットワークを形成することを目的とした。本研究では連続横断調査デザインを用いて啓発介入の効果評価を実施している。連続横断調査(2014年8月、2015年1月)の回答者は基本属性に有意差はみられず、ほぼ同じ属性の集団であったため比較可能な集団であった。初年度の資料認知割合は2.7%から10.2%に上昇した($p < 0.01$)。先行研究に比べるとやや浸透度が低く、本介入の規模が小さかった可能性もあるが、新型啓発介入のベースラインとなる。

啓発介入の副次的指標となるMSM受検者の動向については、大阪市3保健福祉センターは33人~54人、大阪府13(4月以降12)保健所15人~35人、chot CAST なんば90人~144人で、概ね減少傾向であった。次年度以降、新型啓発介入としてインターネットを活用した「やる!プロジェクト」が浸透した場合にはMSMにおける受検行動が促進され、MSM受検者数の増加が期待される。

A. 研究目的

1 研究背景

1) 大阪地域の MSM における感染動向

厚生労働省エイズ動向委員会の報告によれば、大阪を含む近畿地域の 2013 年新規 HIV 感染者数は、男性同性間性的接触によるものが 161 人で 2012 年 (119 人) に比べ増加している。また新規 AIDS 患者数では 49 人であり、2012 年 (43 人) に比べやや増加している。先行研究による近畿地域の MSM 割合を用いて罹患率でみても HIV 罹患率 43.1 (2012 年) から 58.3 (2013 年) に、AIDS 罹患率 15.6 (2012 年) から 17.8 (2013 年) とともに増加している。

MSM 出生年代別にみた先行研究では AIDS 罹患率の推移は 1950 年代生まれ以外のいずれの年代でも増加傾向であった。近年では 1970 年代生まれや 1980 年代生まれでは感染拡大傾向は抑制されつつあるものの、出生年代層が若い群の方がより高く相対的に MSM 集団における感染拡大が示唆されている。地域別にみても 2011 年に東海、九州などの地方地域とともに近畿地域の MSM でも東京都と同等の感染状況となっている。

特にゲイ向け商業施設利用者はリスクの高い集団であると考えられ、過去 6 ヶ月間のコンドーム使用状況や性感染症の既往が非利用群に比べ利用群で高く、リスク状況が依然持続している可能性があることも示されている。コミュニティベースの調査結果からも、24 歳以下及び 45 歳以上の MSM では受検行動、コンドーム使用行動が他年代に比べ極めて低い。一方で、MSM における初交年齢が 20 歳前後であることから 24 歳以下の若年時には性行動が活発化する時期と考えられ、商業施設を利用する若年層 MSM に適した介入モデルが必要である。

2) 大阪地域 MSM 対象の予防啓発介入

(1) 平成 26 年度の活動内容

平成 25 年度 MASH 大阪は個人・グループプレ

ベルの予防啓発プログラムとして「ドロップインセンター dista」の運営、「STI 勉強会-性の健康教室」「若年層ネットワーク構築支援プログラム STEP」を展開してきた。コミュニティレベルの予防啓発プログラムとして若年層 MSM 向けに「コミュニティペーパー SaL+」を、中高年層 MSM 向けに「季刊誌南界堂通信」を発行してきた。インターネット利用者向けには「コミュニティポータルサイト dista.bj」「Safer Sex Info.-セクシュアルヘルス応援サイト」によって情報を発信してきた。また二次予防 (受検促進) 関連プログラムとして「クリニック検査キャンペーン」「クリニックで HIV&梅毒検査受けてみるキャンペーン」の仕組みづくりや広報を担い、保健師や検査担当者を対象として MSM にとって安心できる検査環境の構築を目的に「プロフェッショナルミーティング (PM)」を開催し「大阪府の検査場面における MSM への対応の研修会」に関わってきた。ゲイバー・ハッテン場・クラブイベント・インターネットの 4 ベニューにそれぞれ相応した方法を開発し、これら 10 プログラム (研修会を除く) を継続的に実施することで、予防規範を浸透させ予防行動を一部促進させつつあることなどが先行研究で示唆されており、成果があったと考えられる。

一方で近年「コミュニティペーパー SaL+」はターゲット層である若年層 MSM の認知率の低下などから訴求対象が固定化されていることが示されており、コンドーム使用行動も若年層では他年齢層と比べ低いままであった。と二次予防 (受検促進) 関連プログラムについても行政担当者との関係構築は進んできたが、過去 1 年間の受検割合は 30% 前後で横ばいであり、大阪地域の現状を省みると大きな成果が得られているとは言えない。これらから MASH 大阪は 10 年以上続けてきた活動の方向性や意義を改めて確認する必要性が出てきた。

先行研究で大阪地域の商業施設利用者には常に流入してくる MSM が存在することが明らか

かとなっている。移り変わるコミュニティに対応するために、MASH 大阪は当事者性を活かし、新規流入者を巻き込むことやコミュニティのキーパーソンと協働することで柔軟な活動を展開してきた。定例会議等で検討した結果、認知率の低下は活動に対する柔軟性の喪失を示している可能性があり、それはマンパワー不足や介入アイデアの不足によるものが大きいと思われた。例えば、制度化された組織運営によって固定化したスタッフの当事者性が消失しつつあることも考えられ、コミュニティの雰囲気を含むプログラム構築および運営が難しくなっていると考えられた。それは当事者を含む CBO (Community-based organization) の存在意義にも関わる。

そこで平成 26 年度は継続してきた 10 プログラムのうち「STI 勉強会-性の健康教室」や「若年層ネットワーク構築支援プログラム STEP」を個別のプログラムではなく「ドロップインセンターdista」に組み入れ不定期に開催することとし、「コミュニティポータルサイト dista.b」 「Safer Sex Info.-セクシュアルヘルス応援サイト」を「ドロップインセンターdista」のホームページとして位置づけを見直した。また訴求対象が固定化されている「コミュニティペーパー-SaL+」を休刊とし、中高年層 MSM 向け「季刊誌南界堂通信」を継続することにした。また「プロフェッショナルミーティング (PM)」によって行政担当者との関係構築が進んだとの認識と「クリニック検査キャンペーン」「クリニックで HIV&梅毒検査受けてみるキャンペーン」などの検査事業が大阪府によって事業化されたことを鑑み、広報のみを担うこととし、MASH 大阪の主たるプログラムと別に考えることとした。

そうして 10 プログラムを一旦 2 プログラムに減らし、大阪地域の商業施設利用者に常に流入してくる MSM の中でも、ゲイ・ツーリス

ムと言われる中国・四国地域在住の MSM を対象とした介入として、HaaT えひめと協働し「ゲイコミュニティペーパー ファイト！ 四国地方版」の発刊を支援した。各プログラムのアウトカムを以下の表 1 に示す。

表 1 2014 年 4 月～2015 年 1 月までの
MASH 大阪活動実績

プログラム名	アウトカム
Community Center dista 2014 年 2 月から 2015 年 1 月まで	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者数累計 8,489 人 ・月平均 707 人 ・日平均 29 人 ・新規利用率 8.6%(2014 年 2 月)～ 2.7%(2015 年 1 月)
季刊誌 南界堂通信 2015 年 2 月時点	<ul style="list-style-type: none"> ・7号 ゲイ向け商業施設 197 軒、 郵送 40 ヶ所に 3,033 部配布 ・8号 ゲイ向け商業施設 200 軒、 郵送 39 ヶ所に 2,966 部配布 ・9号 ゲイ向け商業施設 189 軒、 郵送 39 ヶ所に 2,822 部配布
ゲイコミュニ ティペーパー ファイト！ 四国地方版 2015 年 2 月時点	<ul style="list-style-type: none"> ・5号 ゲイ向け商業施設 54 軒、 2 イベントに 2,000 部配布 ・6号 ゲイ向け商業施設 54 軒、 1 イベントに 1,950 部配布 ・7号 ゲイ向け商業施設 54 軒 に 1,700 部配布

南界堂通信プログラムでは、培ったネットワークを活用してゲイバースタッフを巻き込んで、「ドロップインセンターdista」で茶会も開催した(参加者数 47 名:うち推定新規割合 25%以上)。平成 26 年度は 3 プログラムを展開しつつ、大阪府や大阪市などの地方行政の検査事業と協働して「クリニック検査キャンペーン」「dista でちえっくん」などの広報を実施した。

(2) 平成 26 年度の運営体制

これまで MASH 大阪は毎月 1 回の定例会議を設けており、その中で各プログラムの進捗状況の共有と承認を行ってきた。各プログラムは予算ベースで分かれており、プログラム毎の会議が個別に開催され運営されてきた。こ

の体制は各プログラムスタッフがほぼ重複している場合や少人数の場合には迅速で効率的な運営となるが、同時にスタッフ間で得られる情報量に格差が生まれ、活動への意識や態度・ミッションにズレが生じることが課題となった。定例会議でも以下のような意見交換があった。

「今までの体制では、MASH大阪のスタッフがコミュニティセンターを運営しているように感じられ、コミュニティの人々を巻き込んでいくことが難しい面があった。今後は、コミュニティの人たちでdistaを主体的に運営できる仕組みに変えていく方がコミュニティの人々のメリットになり、MASH大阪のミッションにも沿う。コミュニティの人をいかに運営に巻き込んでいけるか課題となる。

これまでの体制では、コンシェルジュの役割として①対人サービス、②備品管理、③来場者記録の管理、④相談対応を行っており、dista利用時の利便性が確保されるなど一定の成果が得られている。しかし、カウンターを設置すると、接客する側、される側になることあり、コミュニティの人が主体的に運営できているかどうか疑問が残る。(定例会議議事録より抜粋)」

またこれまでの定例会議は各プログラムの進捗確認が主となり、会議参加者が運営自体にコミットすることが難しいという課題もあった。これは会議に参加する当事者の意見を反映する場が極めて少ないということであり、マンパワー不足を助長するだけでなく、ミッションとの整合性の確認や各プログラム間の連携構築が不十分となる危険性を孕んでいる。

そこで平成26年7月以降、コミュニティの当事者自身が「コミュニティにおけるセクシュアルヘルスを増進」させるというミッションに立ち返り、MASH大阪の活動全体を見

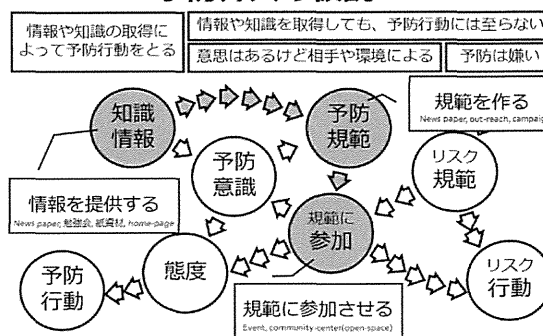
直し、現行10プログラムからコミュニティとの関係構築に重要な役割をもつ2プログラムのみとした。

そして意思決定の方法としてプログラム毎の会議は設けず、定例会議に一元化し、全てを同時に検討することとした。可能な限り迅速・柔軟に対応していくため、定例会議の頻度を月2回に増やし公開性とした。

また会議議事録もメールマガジンで公開することとした。検討される情報の中には誤解を招きやすいこともあるため、掲載の可否については全体会議内で吟味し、メールマガジンで議事録を公開する前に会議参加者が確認する。また会議に参加しなかったメールマガジン読者から疑義や質問があった場合には、次の会議で共有し再度検討することとした。

(3) 介入方法の仮説

背景：商業施設利用者への介入 予防介入の仮説



図はMASH大阪の介入方法の仮説を示した。これまでの活動においてMAHS大阪は、ゲイコミュニティの中でも感染リスクが高いゲイ向け商業施設利用層(大阪の商業施設に流入する層)を介入対象の中心として考えてきた。

平成26年度は定例会議において対象をさらにセグメント化し、情報や知識の取得によって予防行動をとる層と情報や知識を取得しても予防行動には至らない層を想定した。そして情報や知識を取得しても予防行動には至らない層を、予防意思はあるものの相手や環境によって行動を変化させる場合と予防の

意思がない場合に分類し、各々が規範を形成し、あるいは参加することによって、個人の中で予防行動とリスク行動が同時期に、その状況に応じて生じていると考えた。

これまでコミュニティベースの調査によって明らかにされたコンドーム使用行動が著変なく一定の割合が横ばいであった背景には、コミュニティにおける予防規範やネットワークが固定化されたものではなく、可逆的・流動的なものであることが関連しているように思われる。また、出生年代別の HIV 罹患率が若年層における感染拡大を示していることや、若年層における生涯 HIV 抗体検査受検経験は他の年代に比べて低くとどまっていることの背景には、従来の予防介入によって醸成した HIV 感染に対する予防意識や予防行動が、対象となった世代に限定されており、世代間で引き継がれていない可能性を示唆している。

したがって戦略的に予防行動を促進するためには、従来の予防介入によって醸成した HIV 感染に対する予防意識といったコミュニティの規範やネットワークに、より多くの人に参加することによって、集団をとりまく環境そのものを変容させ、予防規範やネットワークとのつながりを強く密にしていくことで、コミュニティ全体の予防行動を促進させることが重要であると考えた。

その方法として、当事者目線で作成されたニュースペーパー・紙資材・ホームページや、当事者参加型の勉強会によって「情報を提供する(第1段階)」、ネットワークを構築する継続的なアウトリーチや予防・セーフターセックスを想起させるキャンペーンによって「予防規範を作る(第2段階)」、イベントやオープンスペースのあるコミュニティセンターに自発的に来場することで対象自身が「規範に参加する(第3段階)」といった段階を準備し、それぞれのプログラムが全て連動している状態を目指した。

2 研究目的

大阪地域の MSM の感染動向や MASH 大阪の予防介入の仮説を背景に、本研究ではエイズ対策としての予防介入に活かすため、商業施設に新たに流入してくる層(利用しはじめる層)の特性を明らかにしようとした。必然的に若年層 MSM が主な対象となると考えられるが、先行研究では日本の MSM の初性交経験は平均 20 歳前後であることが多数報告されており、初性交時周辺に焦点をあてた予防介入を開発することが必要となる。一方で、ゲイ向け商業施設を利用する若年層では、性行為に至る経路(出会いのツール)がインターネットの台頭によって複雑化しており、従来の資材配布などの予防介入方法では対象をリーチすることが困難となっており、新たな予防介入方法を開発する必要性も言われている。

しかしゲイ・バイセクシュアル男性における初性交時の相手との関係性やその時点での予防行動について明らかにされている研究はほとんどない。薬物使用の契機は相手との関係性やそのときの精神状態が大きく影響していることが言われており、初性交時の相手との関係性や予防に関する状況もその後の性行為における予防行動や意識、感染リスク行動にも影響している可能性が考えられる。

そこで本研究では、男性との初性交時の状況とその後の性行動との関連を明らかにし、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象に新規介入方法を開発し連続横断研究デザインを用いて効果を実証することを目的とした。

初年度は初性交時の状況を明らかにし、若年層 MSM を対象とした従来型啓発介入を実施し、得られたデータを基に評価指標を確立することを目的とした。また得られたデータを基に平成 27 年度に新規介入を開発・実施し効果を従来型啓発介入と比較し検証し、平成 28 年度には新規開発介入の持続性評価と他地域への応用を図ることとした。

B. 研究方法

1 初性交時周辺に焦点をあてた予防介入「やる!プロジェクト」の開発と試行

本研究では MASH 大阪と協働し、商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を 24 歳以下の若年層と仮定して、これまでの経験と予防介入の仮説に従って、予防や性感染症の情報を普及し予防ネットワークを形成することを目的とした「やる!プロジェクト」を展開した。これは情報を掲載したポストカード・コンドーム(1~2 個)・ローション(40 g)をセットにして配布するプロジェクトであり、仮説の第 1 段階にあたる。若年層に訴求力を高める工夫として 1 種類のポストカードに 1 つの情報のみを掲載し、片面には商業施設やゲイコミュニティの間に人気の高いイラストレーターやキーパーソンを起用した。そして、ゲイ向けクラブイベントや dista 来場者、若年層向けイベントなど若年層が集まるところで配布した。いろいろな種類のポストカードを混ぜて配布することで長期間にわたり情報を補完的に配布することとした(従来型啓発介入)。

研究デザインとして平成 26 年 8 月から平成 27 年 1 月までの 6 ヶ月間配布し、全てのセットに下記のロゴマークを貼り付け、その認知によって訴求力を測ることとした。



2 コミュニティベース調査

1) 調査方法

初性交時の状況を明らかにし、展開した従来型啓発介入における訴求性を示すベースラ

インを得るために、コミュニティベース質問紙調査(GCQ アンケート)を実施した。本調査は先行研究によって開発された手法であり、ゲイ向けクラブイベントなどの当事者に近い商業施設をシードにし、インターネットを用いて回答する仕組みとなっている。質問の内容は基本属性、検査行動、性行動(初性交時、一番最近の性交時、過去 6 ヶ月間の性交時)、性感染症既往歴、HIV に関する対話経験、啓発介入への接触状況など 60 問であり、第 1 回目の調査は従来型啓発介入が展開され配布される前の平成 26 年 7 月 31 日から 8 月 17 日までの 18 日間、第 2 回目は配布が終了する時期にあわせ平成 26 年 12 月 12 日から平成 27 年 1 月 13 日の 32 日間実施した。

また中国・四国地域では HaaT えひめと協働し、地域差の動向を把握する目的で同様の調査を平成 26 年 7 月 31 日から 9 月 30 日までの 62 日間実施した。

2) 分析方法

得られたすべての回答のうち、近畿地域に居住する MSM およびゲイ・バイセクシュアル男性を分析対象とした。年齢を 24 歳以下、25 歳-29 歳、30-34 歳、35-39 歳、40-44 歳、45 歳以上の 6 区分の年齢層に分類した。

まず横断調査回答者となった集団を比較し、集団の特性の差異を明らかにし、研究デザインの妥当性を検討するために、第 1 回目と第 2 回目の調査回答者の属性・検査行動・性行動・啓発介入への接触状況についてカイ 2 乗検定を用いて分析した。

次に初性交時の状況を明らかにするために、分析項目に無回答であったものを除き、近畿地域在住の MSM で過去 6 ヶ月間に性交経験をもつ回答者を対象に、コンドーム使用状況別に性交時の状況を比較した。初性交時と一番最近の性交時のコンドーム使用については、選択肢を使った、使わなかった、覚えていないとし、使ったと回答したものを使用、その

他を不使用と分類した。初性交時のコンドーム使用状況と初性交時の状況についてクロス集計を行い、カイ 2 乗検定を用いて有意差を明らかにした。有意差のあった項目と年齢層について多変量解析を行った。多変量解析においては多重ロジスティック回帰分析強制投入法を用いた。初性交時の状況とその後の性行動との関連を明らかにすることを目的に同様の方法で、初および一番最近の性交時のコンドーム使用状況についても分析を試みた。初および一番最近の性交時のコンドーム使用状況は両時点で使用であったものを使用、両時点で不使用もしくはいずれかで不使用であったものを不使用と分類した。その他分析に際して以下のように項目を分類した。

表 2 質問項目の分類

質問項目	分析項目
Q セックスした時、コンドームについてどのように思っていましたか？	
使いたいと思っていた	意図あり
使いたいと思っていなかった 相手に合わせようと思っていた（相手次第） わからない 覚えていない	意図なし
Q セックスした時、コンドームをつけられる自信はありましたか？	
とても自信があった	自信あり
やや自信はあった	やや自信あり
あまり自信はなかった まったく自信はなかった 使いたいと思っていなかった わからない 覚えていない	自信なし
Q セックスした時、あなたはお酒を飲んで酔っていましたか？	
とても酔っていた やや酔っていた	酔っていた
まったく酔っていなかった	酔っていない
お酒を飲んでいなかった 覚えていない	飲んでいなかった 覚えていない

質問項目	分析項目
Q セックスした時、使用したものはありますか？（あてはまるものすべて✓）	
ぼっき薬(バイアグラなど) ラッシュ 5MEO-DIPT(ゴメオフォクシ-) スピード・エクスタシー(MDMA など) その他のセックスドラッグ(合ドラや威哥王など) 脱法ハーブ 静脈注射のドラッグ 違法ドラッグ(マリファナ・コカイン等) いずれも使用していない 覚えていない	いずれか使用したものを「ドラッグ併用」 いずれも使用していない/ 覚えていないを「なし」

最後に近畿地域の MSM における性行為に関する動向を把握することを目的に、初性交の時期によって 10 年以上前であったもの（以下、10 年以上前群）と 10 年未満（～9 年以内）であったもの（以下、10 年未満群）の性交時の状況について、カイ 2 乗検定を用いて比較した。

データの集計および統計処理には IBM SPSS Statistics 19 を用いた。統計的有意水準は 5% 未満とした。

表 3 本研究における分析目的一覧

分析	分析の目的
近畿地域における調査回答者の比較	横断調査回答者となった集団を比較し、集団の特性の差異を明らかにし、研究デザインの妥当性を検討する
初性交時のコンドーム使用状況と初性交時の状況	初性交時の状況を明らかにする
初および一番最近の性交時のコンドーム使用状況と性交時の状況	初性交時の状況とその後の性行動との関連を明らかにする
初性交の時期(10 年以上前・10 年未満)	近畿地域の MSM における性行為に関する動向別の性交時の状況を把握する

なお、本調査は名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得ている。（2014 年 8 月 26 日改定、ID 番号 14025-2）

やる!

make it with CONDOM

HIV-について

? HIVはどうやってうつるの??

HIVは、ヒトの体液(精液や先走り液、膣分泌液、血液、母乳)の中であってセックスするときに、体液が粘膜(ペニスの先や口の中、アナルの内側、眼など)や傷口に直接触れると感染するリスクが高くなります。

セックスのときにも目に見えない小さな傷口ができるのではじめからコンドームを使っておくと相手に感染させてしまうリスクも相手から感染させられるリスクも低くなります。

プールやシャワー、銭湯、トイレの共用や食事や飲み会でうつることはありません。せきやくしゃみでもうつりませんが、風邪は早目になおしましょうね!

セックスでうつる病気「HIV」はHIVウイルスの名前です。HIVに感染したあとしばらくしてから身体の免疫力が低下している状態になりやすくなってしまいます状態を「AIDS(エイズ:後天性免疫不全症候群)」と言います。症状がなくても感染している場合が多く、気腫所などのHIV検査を受けることでHIVに感染しているかどうかわかります。

Illustrated by SUV. Designed by O'SYU!

やる!

make it with CONDOM

コンドームの使い方

より詳しい方法を知りたい人は **dista** にきてね!
HP: <http://www.dista.be>

- 袋から取り出す。表裏を確認しよう! 袋の破り方は端に寄せてちぎり切る感じで。
- 表裏の確認をしてから、精液だまりの空気を抜く。袋からとり出すとき爪で傷つけないように注意。
- 勃起したペニスの皮を根元までたぐり寄せ、コンドームを途中までおろす。
- 包帯の場合は、コンドームの根元を持ちながら根元で余っている皮を電線の方向へ寄せ上げる。陰毛を巻き込まないように注意。
- 封筒後はすみやかに膣やアナルからペニスを抜いて、コンドームの根元を押しえながらペニスを抜く。使用済みのコンドームは口を縛って可燃ゴミとして処分する。
- 一度使用したコンドームは捨てましょう。つけるのに失敗したコンドームは使わない。

つこのやくそく!

Illustrated by SUV. Designed by O'SYU!

やる!

make it with CONDOM

コンドーム保存法

より詳しい方法を知りたい人は **dista** にきてね!
HP: <http://www.dista.be>

- 圧力や摩擦にも弱いので、財布や定期入れなどには入れない。ハードケースなどを利用する。
- 熱に弱いので、高温になるところ(車の中など)や日光のあたる場所を避ける。
- 自分のペニスにあったものを選び、より気持ちいいセックスができる。はず。
- 2つを重ねて使うと破損する可能性がある。
- 箱に記載されている使用期限を守る。箱から出すと個別には使用期限は書いてない場合が多いよ。
- 防虫剤と一緒に保管すると、薬品が小袋を浸透しラテックスと化学反応をおこして破れやすくなる。
- コンドームは大きさや材質、厚さ薄さ、形などいろいろなものがあるよ。
- 油分にも弱いので、ベビーオイルや油性セリナーには使わない。潤滑剤を使用するときは水溶性のものを選ぶ。ドラッグストアなどでも手軽に買えるよ。

コンドームの秘密

Illustrated by SUV. Designed by O'SYU!

やる!

make it with CONDOM

アナルセックス

より詳しい情報は **safer-sex info** を見てね!!
→ <http://www.safer-sex.info>

- 入れる前の水溶性ローションはたっぷり使う。
- コンドームは大きめに選んで、ゆるめに巻く。
- 挿入するときは、肛門の奥に指をさすようにして、肛門の位置を確認しよう。
- 使ったコンドームは口を縛って捨てる。

Illustrated by SUV. Designed by O'SYU!

やる!

make it with CONDOM

フェラについて

より詳しい情報は **safer-sex info** を見てね!!
→ <http://www.safer-sex.info>

- 精液をのみこまない。
- 口内射精されたら出来るだけ早く口から出してうがいしよう。
- フェラをするときは、口の中は清潔に保ちよう。
- フェラしてもう時は、相手の口の中は虫や菌がながればリスクが少ない。
- 口や舌が強い時のフェラは、性病発症の感染率がアップする。

Illustrated by SUV. Designed by O'SYU!

開発したセットは紙のみの資材に比べて、取得率が10%~20%程度上昇したベニューもあった。またポストカードの情報を検査情

報などに変更することによって、大阪府や大阪市、岡山県などの地方行政との連携が可能となり、検査情報と本研究班で作成した情報を、配布先の雰囲気に合わせて混ぜて配布した。

2 コミュニティベース調査

本研究では近畿地域において従来型啓発介入の前後に2回、中国・四国地域では従来型啓発介入の開始後に1回実施した。概要を以下の表4に示す。

表4 コミュニティベース調査の概要

調査	地域 (協働CBO)	実施期間	回答者数
調査1	近畿 (MASH大阪)	平成26年 7月31日から 8月17日	991人
調査2	近畿 (MASH大阪)	平成26年 12月12日から 平成27年 1月13日	478人
調査3	中国・四国 (HaaTえひめ)	平成26年 7月31日から 9月30日	239人

本研究ではそれぞれの調査について年齢層別の状況を集計し付表10-1から付表10-4、付表11-1から付表11-4、付表12-1から付表12-4に示した。

調査1では991人の回答を得た。そのうち重複回答を除く、近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMは602人であった(有効回答率60.7%)。分析対象となった602人の年齢層は24歳以下139人(23.1%)、25-29歳200人(33.2%)、30-34歳115人(19.1%)、35-39歳82人(13.6%)、40-44歳40人(6.6%)、45歳以上は26人(4.3%)であった。居住地は大阪府が最も多く65.8%、次いで兵庫県18.8%、京都府が7.3%であった。HIV性感染症の既往については全体で4.3%であり、35-39歳が最も高く6.1%であった。[付表10-1から付表10-4]

調査2では478人の回答を得た。そのうち重複回答を除く、近畿地域在住のゲイ・バイ

セクシュアル男性およびMSMは236人であった(有効回答率49.4%)。分析対象となった236人の年齢層は24歳以下66人(28.0%)、25-29歳60人(25.4%)、30-34歳53人(22.5%)、35-39歳26人(11.0%)、40-44歳22人(9.3%)、45歳以上は9人(3.8%)であった。居住地は大阪府が最も多く63.1%、次いで兵庫県22.5%、京都府が9.3%であった。HIV性感染症の既往については全体で3.0%であり、30-34歳が最も高く9.4%であった。[付表11-1から付表11-4]

調査3では239人の回答を得た。そのうち中国・四国地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMは213人であった(回答率89.1%)。分析対象となった213人の年齢層は24歳以下27人(12.7%)、25-29歳41人(19.2%)、30-34歳38人(17.8%)、35-39歳42人(19.7%)、40-44歳39人(18.3%)、45歳以上は26人(12.2%)であった。居住地は愛媛県が最も多く40.8%、次いで香川県32.9%、岡山県が9.9%であった。HIV性感染症の既往については全体で4.2%であり、45歳以上が最も高く7.7%であった。[付表12-1から付表12-4]

ここでは近畿地域の結果を中心に、研究目的や啓発介入にとって重要と思われる部分を報告する。

1) 近畿地域における調査回答者の比較

(付表1、付表2、付表3)

基本属性について調査1回答者と調査2回答者を比較すると、居住形態では一人暮らしの割合が調査1で46.8%、調査2で52.5%(以下同順)、同性のパートナーもしくは友人との同居割合が12.6%と8.5%、家族等との同居割合が40.5%と39.0%であり有意差はみられなかった($p=0.15$)。現在の職業ではいずれの調査でも正規雇用割合が最も高く57.6%と54.7%であった($p=0.10$)。スマートフォン

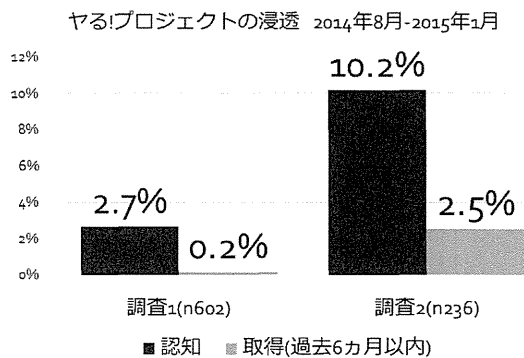
所持率は極めて高く 96.0%と 93.2%であった ($p=0.09$)。

生涯受検割合は 62.8%と 67.8%で有意差はみられない ($p=0.17$)。一方で、コンドーム使用意図については調査 1(67.1%)に比べ調査 2(50.0%)では低かった ($p<0.01$)。またコンドームをいつも持っている割合は調査 1(41.5%)に比べ調査 2(50.0%)では高かった ($p=0.04$)。過去 6 ヶ月間のアナルセックスの相手人数が 2 人-3 人の割合は調査 1(27.8%)に比べ調査 2(39.4%)では高かった ($p<0.01$)。

本研究で開発した「やる!プロジェクト」の認知割合は調査 1(2.7%)に比べ調査 2(10.2%)では高かった ($p<0.01$)。また取得割合も調査 1(0.2%)に比べ調査 2(2.5%)では高かった ($p<0.01$)。[図 1]

各調査における「やる!プロジェクト」の認知と検査行動および予防行動、感染リスク行動とのクロス集計結果を付表 3 に示した。

図1 啓発介入の効果評価-base line data-



2) 初性交時の予防行動に関連する要因

(付表 4、付表 5、付表 7、付表 8)

初性交時の状況を明らかにするために、分析項目に無回答であったものを除き、近畿地域在住のMSMで過去 6 ヶ月間に性交経験をもつ回答者を対象に、初性交時のコンドーム使用状況別に性交時の状況を比較した。

他のゲイ男性と直接出会って初めて話した平均年齢は年齢層別に異なり、24 歳以下の若

年層では平均 17.6±2.2 歳と 45 歳以上の高年齢層の平均 23.3±6.4 歳に比べ若かった。また初めて男性とセックスした年齢も同様の傾向であり、24 歳以下の若年層では平均 18.1±2.5 歳であった。[付表 4]

本調査では「初めて直接話した他のゲイ男性と出会った場所や方法」「初めてセックスした男性と出会った場所や方法」「最近セックスした男性と出会った場所や方法」についても尋ねており、年齢層別に集計し付表 8 に示した。またまとめたものを図 2 から図 7 に示した。

図2 セックスした相手と出会った場所や方法

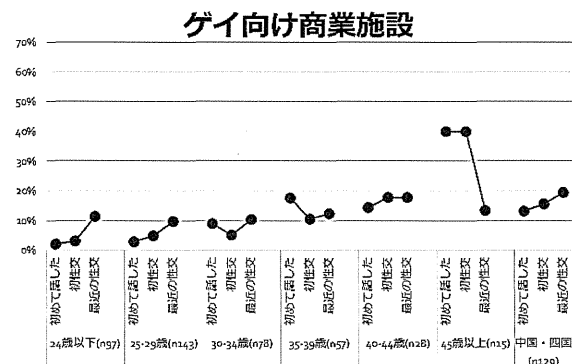


図3 セックスした相手と出会った場所や方法

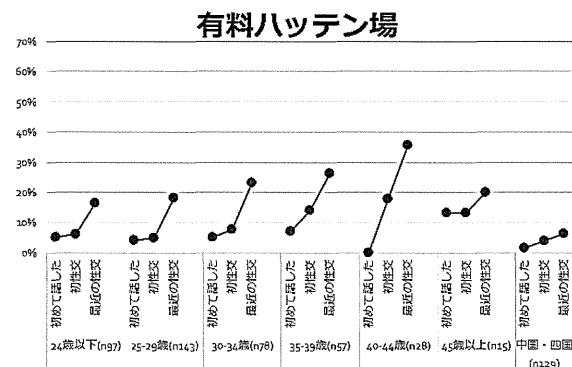


図4 セックスした相手と出会った場所や方法

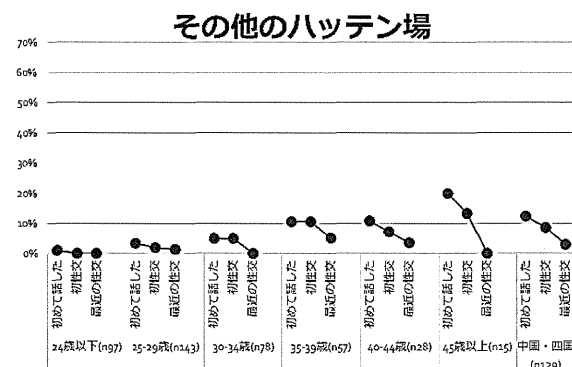


図5 セックスした相手と出会った場所や方法

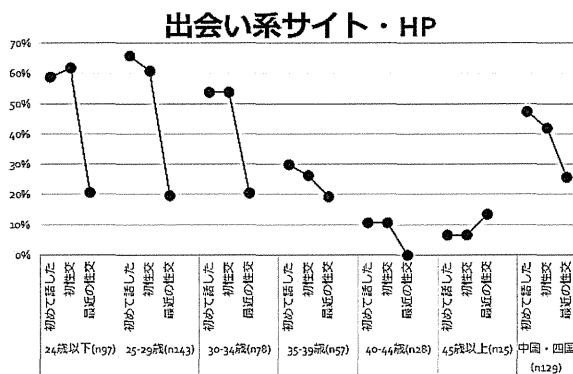


図6 セックスした相手と出会った場所や方法

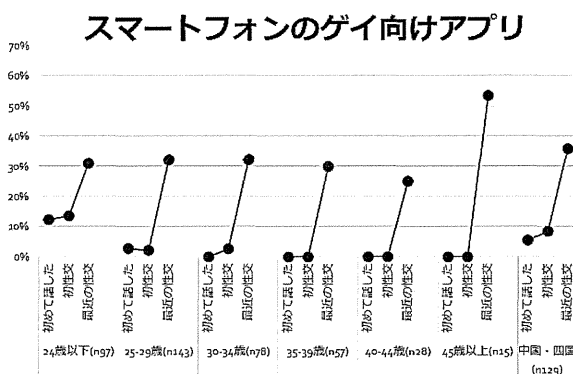


図7 セックスした相手と出会った場所や方法

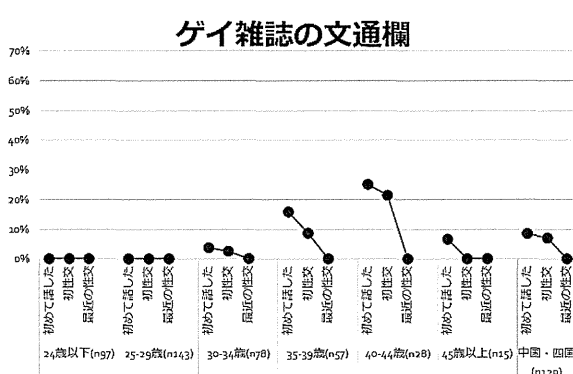
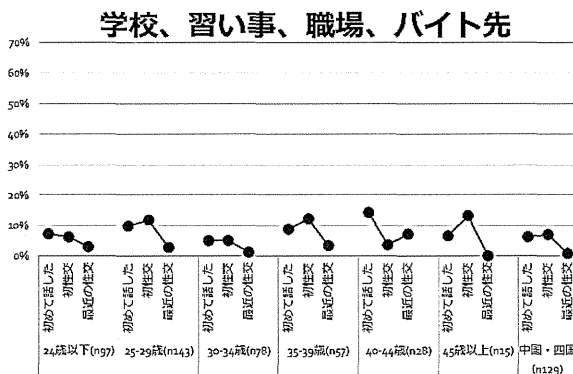


図8 セックスした相手と出会った場所や方法



出会った場所や方法は、年齢層によって異なり、34歳以下では初めて話した相手やセックスした相手との出会いは出会い系サイトなどが高い割合であり、初めて話した相手で53.8% (30-34歳層)-65.7% (25-29歳層)、初めてセックスした相手で53.8% (30-34歳層)-61.9% (24歳以下層)であった。一方で最近セックスした相手との出会いはいずれの年齢層でもスマートフォンのゲイ向けアプリが高く25.0% (40-44歳層)-53.3% (45歳以上層)であった。次いで有料のハッテン場が16.5% (24歳以下層)-35.7% (40-44歳層)であった。

また初めて話したゲイ男性とセックス(キスやフェラチオ、アナルセックス等)をした割合は78.4% (24歳以下層)-86.7% (45歳以上層)と極めて高かった。逆に一番最近にセックスした相手が、初めてセックスした男性と同じ人であった割合は0.0% (45歳以上層)-8.8% (35-39歳層)と極めて低かった。[付表8、図2から図7]

また中国・四国地域においても同様の分析を実施した。中国・四国地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSM(n=129)では、出会い系サイトなどで知り合い(47.3%)、初めてのセックスの相手とも出会い系サイトなど(41.9%)が多かった。また最近のセックスの相手との出会いはスマートフォンのゲイ向けアプリ(35.7%)が高く、次いで出会い系サイト(25.6%)、ゲイバー(15.5%)であった。[付表8]

調査1の回答者を対象とし、年齢層を加えた多重ロジスティック回帰分析強制投入法の結果、初セックス時のコンドーム使用状況に最も強く関連していたのは初セックス時のコンドーム使用意図であり「意図あり」は「意図なし」の4.37倍(95%信頼区間:2.54-7.50)のodds比であった。次いでコンドーム使用への自信であり、「自信あり」は「自信なし」の3.52倍(95%信頼区間:2.01-6.18)のodds比

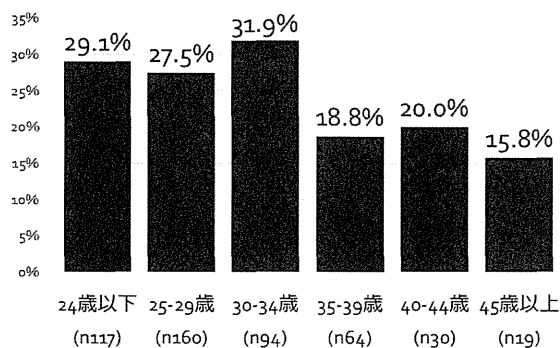
であり、「やや自信あり」は「自信なし」の 2.21 倍(95%信頼区間: 1.19-4.10)の odds 比であった。[付表 7]

3) 初および最近の性交時の予防行動に関連する要因(付表 6、付表 7)

初性交時の状況とその後の性行動との関連を明らかにすることを目的に、初および一番最近の性交時のコンドーム使用状況についても分析を試みた。

初めてのセックス時と一番最近のセックス時の2時点で両方コンドームを使用していた割合は全体では 26.7%であり、年齢層別に有意差はみられなかった($p=0.35$)。[付表 6、図 9]

図9 初および最近のセックス時のコンドーム使用-両方使用割合-



年齢層を加えた多重ロジスティック回帰分析強制投入法の結果、初および最近のセックス時のコンドーム使用状況に最も強く関連していたのは最近のセックス時のコンドーム使用意図であり「意図あり」は「意図なし」の 4.68 倍(95%信頼区間: 2.10-10.44)の odds 比であった。次いで初セックス時のコンドーム使用意図であり、「意図あり」は「意図なし」の 4.06 倍(95%信頼区間: 1.97-8.37)の odds 比であった。コンドーム使用への自信も関連しており、「自信あり」は「自信なし」の 3.40 倍(95%信頼区間: 1.71-6.73)の odds 比であった。[付表 7]

4) 初性交の時期別分析(付表 4、付表 9)

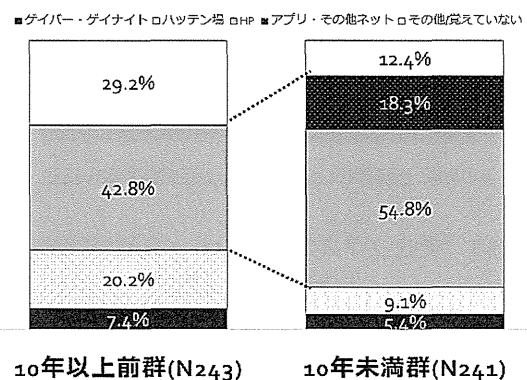
近畿地域在住の MSM で過去 6 ヶ月間に性交

経験をもつ回答者(n=484)のうち、初めて男性とセックス時期が 3 年以内であったものは 15.7%、4 年~6 年前であったものは 18.6%、7 年~9 年前であったものは 15.5%、10 年以上前であったものは 50.2%であった。30-34 歳層(2.1%)や 40-44 歳層(6.7%)でも 3 年以内に男性と初めてセックスしたものがいた。[付表 4]

近畿地域の MSM における性行為に関する動向を把握することを目的に、初性交の時期によって 10 年以上前であったものと 10 年未満であったものの性交時の状況について、カイ 2 乗検定を用いた結果を付表 9 に示した。男性との初セックスが 10 年以上前群は 30-34 歳層が 30.5%、25-29 歳層が 26.3%、35-39 歳層が 23.5%であった。10 年未満群は 24 歳以下の層が 47.3%、25-29 歳層が 39.8%であった。

初めてセックスした男性と出会った場所や方法について、10 年以上前群では HP(ホームページなどの掲示板)が最も高く 42.8%、次いでハッテン場 20.2%であった。10 年未満群でも HP が最も高く 54.8%であるが、次いでスマートフォンのアプリが 18.3%、ハッテン場が 9.1%であり有意差がみられた($p<0.01$)。[付表 9、図 10]

図10 初セックスの相手と出会った場所等



初めてセックスした時の複数での性行為経験があったものは、10 年以上前群で 2.5%、10 年未満群で 6.2%であり有意差がみられた($p=0.04$)。また性交時のドラッグ併用経験は、10 年以上前群で 6.6%、10 年未満群で 2.1%